

平成18年度実績評価事務事業進行管理表

事務事業名	次世代を担う産業人材育成事業				財務会計上の位置付け	会計	款	項	目	細目	細々目	19予算額(千円)	
部等名	産業経済部	課等名	工業課		包含する細々目	1	7	1	5	10	16	900	
政策	1 多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり												
施策	12 人材育成と企業、人材誘導												
実施区分	継続	会計	一般会計	環境調整会議	不要	関連計画条例等		地域経済活性化プログラム					
		事業期間	5	年度～	年度								

【Do】(1)この事務事業は次の目的を達成することを目指します。

目的の記述	対象(人や物、自然資源など)	対象の大きさを表す対象指標名と単位	対象指標の数値			
	市内の小、中、高校生	4年生以上の小学生:人	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度	23年度以前に終了は終了年度とする	
			3000	3000		
		教室参加者数	現状又は19年度見込	23年度又は終了年度		
			200	250		
	意図(成果は何か、対象をどうかえるか)	成果達成度を表す成果指標名と算定式・単位	成果指標の数値(実績・目標)			
製造業等地域産業の魅力を理解してもらう。	楽しかったと感じた参加者の割合:%	18目標	90	最終目標		
		18実績		19目標	95	
		23目標	95	23実績		
		18目標		最終目標		
		18実績		19目標		
		23目標		23実績		

(2)意図を達成するために以下のことを取り組みます。

手段の記述	事業の全体概要(補足説明)	具体的活動内容(やり方、手順、詳細)	活動量を表す名称・単位	活動量の値
	<ul style="list-style-type: none"> 子供科学工作教室 寺子屋講座 産業出前講座 夢工房 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども科学教室 ニーズに対応した開催とし、充実した事業とする 寺子屋講座の企画 出前講座 2回:企業社長、技術者、専門家による中高校訪問 知育力向上連携システム整備事業との連携(夢工房) ビジネスフェアでの子供工作教室の開催 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども科学工作教室開催数 寺子屋講座の開催数: 産業出前講座の開催数: 	<ul style="list-style-type: none"> 5 2 2
	18年度の実績			
	19年度計画	<ul style="list-style-type: none"> 子供科学教室運営協力 美博との連携 親子で学ぶ地域産業 地育力向上との連携 出前講座(小中高校生) 地育力向上との連携 地域内の製造業の出張講座 企業人によるものづくり出張講座 親子で企業視察 	<ul style="list-style-type: none"> 子ども科学工作教室開催数 産業出前講座の開催数 	

<金額の単位:千円>		18決算額(見込)	19予算額(当初)
事業費	特定財源		
	国庫支出金		
	県支出金		
	起債		
	その他		
	一般財源	900	900
	事業費計(A)	900	900
人件費	正規職員所要時間	18年度 100	19年度
	臨時職員等所要時間		
	人件費計(B)	358	0
	トータルコストA+B	1,258	900

特定財源内訳や補足事項	
-------------	--

(3)この事業目的の達成は、次の上位(施策や主体の役割)目的の達成に結びつきます。

目的の記述	結果 この事務事業の施策(基本事業)の目的	上位成果指標(施策又はムトス指標)と単位	上位成果指標の数値			
	多様な産業が発展できる経済力の強いまちづくり	経済自立度 (%)	現状値	45.4	19実績	
			20実績		21実績	
			22実績		23目標	60
	製造品出荷額(億円)		現状値	3700	19実績	
			20実績		21実績	
22実績				23目標	4070	

<p>この事業を開始したきっかけ</p> <p>・地元へ就職する技術者が少ないことは、子どもが地域に素晴らしい企業の存在と、ものづくりの楽しさを知らないからとの認識からである。</p>	<p>事業を取り巻く状況の変化</p> <p>・現在の子どもたちが、TVゲームなどでものづくりへの関心が薄れているのは一般的な傾向である。 ・しかし、子ども科学工作教室は毎回ほぼ満員であり、人気が高い。 ・過去にこの教室に参加した子どもが、地元企業に就職し講師として参加するようになった。</p>	<p>事業に対する市民や議会の意見</p> <p>・ものづくり教育・学習による人材育成は必要である。 ・参加者や指導に当たった企業人からは好評を得ている。</p>
---	---	---

【See】18年度の振り返り

目的妥当性評価	<p>この事業の意図の達成が、結果(上位目的)に結びついていますか？</p>	<p>(評価) 結びつく (その理由) 人材育成は地域産業の活性化に不可欠であり、製造業を中心とした「ものづくり」に興味をもたせ、将来の担い手の育成に結びつく。</p>	有効性評価	<p>成果をさらに向上させる余地はありますか？</p>	<p>(評価) 余地がある (その理由) 子どもたちが、ものづくりの楽しさや地域に素晴らしい技術をもつ企業が存在することを知らない。また対象を広げることに関心の度合いも高まり、成果の向上につながる。</p>
	<p>対象の見直し、拡大、縮小の必要性はありますか？</p>	<p>(評価) 必要性がある (その理由) 若年者の各年代層に合わせて、ものづくりの楽しさや地域企業の素晴らしさを感じる機会を提供することが大切である。</p>		<p>廃止・休止した場合の影響はありますか？</p>	<p>(評価) 影響あり (その理由) 子どもたちの、ものづくりや地域企業への関心が薄れる。</p>
	<p>意図の見直しの必要性はありますか？</p>	<p>(評価) 必要性がない (その理由) まず、ものづくりの楽しさや素晴らしさを感じる事が将来においても重要なことである。</p>		<p>他に類似事業はありますか。また統合の可能性はありますか(市以外の取組も含む)？</p>	<p>(評価) 統合可能 (類似事業名、理由) 類似事業有り ・巡回科学実験教室(教委主催) ・理科実験ミュージアム(かざこし子どもの森公園) ものづくりの楽しさを感じてもらおうと、地域企業とともに人材を育てるという点を重要視している。</p>
	<p>市が関与する必要性はありますか？(市が税金を投入すべき事業ですか)</p>	<p>(評価) 必要ある (その理由) 企業の技術力を高めるためには人材の育成、確保が不可欠であり、将来の担い手となる人材の育成には関与する必要がある。</p>		<p>成果を下げずに、事業費や人件費の削減は可能ですか？</p>	<p>(評価) 不可能 (その理由) 受益者負担も求め、講師もボランティアに近い形で関わってもらっている。 事務は一時的であり、実施日も最低人員で対応している。 製造業分野での人材育成は重要で。</p>
		<p>受益者は誰ですか？また、負担の是非、程度は妥当ですか？</p>	<p>(評価) 妥当である (受益者とその理由) 受益者 = 参加者 事業費からみて参加者の負担金は妥当である。</p>		

【Plan】改革改善

<p>今後の事業の方向性</p> <p><input type="checkbox"/> 終了 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的見直し <input type="checkbox"/> 別事業に統合 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 現状維持</p> <p>実施年度 具体化</p>	<p>何を、いつまでにどうするのかの改革改善案</p> <p>子ども科学工作教室については現状を継続していく。参加企業を増やし、多くの企業に将来の人材育成に携わってもらおう機会を増やす方向を検討する。 出前講座等については地育力向上連携システムの中で他施策と効率よく実施する方向を検討する。</p> <p>上記の改革改善案を実施する際、想定される課題とその克服方法</p> <p>地育力事業との連携した取り組み</p>
---	---

【補足事項環境側面】

(1) 環境影響評価の必要性判断	(2) 必要性な場合の実施事由
(3) どのような点に配慮し事業に取り組みましたか？	

【指摘事項】

施策マネジメント会議	
施策評価会議	
第5次基本構想基本計画推進委員会	